

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 7月 22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3494600046		
法人名	社会福祉法人 神寿福社会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 ひまわり苑		
所在地	広島県神石郡神石高原町福永1501-2 (電話) 0847-87-0177		
自己評価作成日	平成28年6月27日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3494600046-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3494600046-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年7月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

介護の方針は、家庭的な環境を大切にし、ひとりひとりの力を大切にし、自立した生活が出来るように援助していきます。また、ひとりひとりに向き合い、その人らしさを大切にします。住み慣れた環境の中・馴染みのある土地名を見たり聞いたりすることにより、安心感を持ちその人らしさを大切にし、ゆっくりゆったり楽しく暮らして頂けるように支援します。

利用者様が健康で、安心して自己肯定しながら生活できる環境を提供しています。そのためには利用者様にきちんと向き合うことが大切だと考え、職員会議やカンファレンスを開催し、ひとりひとりの情報を共有し、利用者様やご家族様の意向を伺ったうえで、必要な支援内容を検討し、サービス提供しています。又、季節感を味わう馴染みの関係を大切にする為、地域住民と交流し、生活を楽しめる苑内外行事を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

恵まれた自然環境の中で、ゆっくり、ゆったりと生活できるように、職員は常に利用者寄り添いながら支援をしている。理事長が建築関係の経験から、住環境は快適な生活空間にこだわり、和を基調とされ、居室空間は使い勝手が良く、毎日の掃除により清潔に保たれている。運営法人は特別養護老人ホームなどを併設し、地域貢献への取り組みを掲げ、認知症カフェ、認知症サポーター養成講座、行事などを行うことにより、近隣の方とは顔なじみの関係ができている。職員も快活に働き、現状に満足することなく”利用者の方がどうしたら喜ぶだろうか”常に考え、日々のケアについて、意見やアイデアを出し合いながら支援をしている。管理者は、職員間のチームワークが大事だと考え、人材育成や働きやすい、魅力ある職場づくりの充実に努めていきたいと考えている。利用者の表情から心休まる暖かい雰囲気が伺えた。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	常に振り返りが出来るよう、理念を目的のつく所に貼り出し、時に皆で復唱している。利用者主体の生活を送っていただけよう、情報を共有し、ケアプランにそってサービス提供している。	職員が出勤・退勤時に確認できるように、目に触れる場所（タイムカード）に掲示されていた。基本理念を基に、各ユニット毎の介護方針を作り上げている。最近では虐待の報道などのことを踏まえ、平成28年度は、虐待防止についての研修を強化したいと考え、年間計画に盛り込んでいる。	今後は、地域状況や利用者の状況、各職員間の意見を取り入れた年間目標を作り上げる必要性があります。理念と照らし合わせながら、日々実践・全員で共有しながら、支援して頂くことを望みます。達成度を評価し、自己点検するなか、次年度に繋げていく取り組みが望まれます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	保育所・特別養護老人ホーム・地域の行事に招待して頂き、積極的に参加している。昔からの馴染みの理容院・美容院が利用できるように送迎している。受診時には、近所だった方や顔見知りの方との会話が弾んでいる。地域で開催されるサロンへ参加している。	保育所（運動会）・特別養護老人ホーム（催し物など）・地域の行事（老人福祉大会）への誘いがあり、参加している。地域の高齢者サロンへ月2回参加されるなかで、以前の知人・友人と顔を合やす機会がある。積極的に地域と関わるなかで、近隣の方とは、顔なじみの関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	学習の一環としての実習生を積極的に受け入れるようにしている。老人会等からの要請があれば、集まりに参加して、施設の概要や認知症についての勉強会を一緒に行ったり、施設見学の依頼にも気軽に応じている。又キャラバンメイトの資格を持つ職員が、地域において、認知症サポーター養成講座をおこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議に報告し、業務内容の改善に努め、会議の意見を反映したサービスの向上に努めている。大きな行事には運営推進委員の方々が参加して下さるので、その場での率直な意見を得られ、次の行事に反映出来る様になっている。	内容は、事業所での取り組み状況や、1年間の反省と次年度へ向けた意見交換などである。参加者から普段の外出先（花見）の場所を遠方から近場の場所に変更してはどうかと提案され、変更したこともある。随時参加者との連携を行い、意見や要望を頂くなかで、利用者支援および運営に繋げている。	家族が特定（代表者）の人のみである。①会議の目的を説明②利用者の家族へ運営推進会議録の送付など、利用者家族に運営推進会議の目的を理解していただく取り組みが望まれます。
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町・地域包括支援センター等に指導、助言を得て、サービスの向上に努めている。認定更新時の聞き取り時には、ご本人やご家族の要望や困っている事などを伝えて情報を共有できるようにしている。	担当者とは相談したり密に連絡を取り合い、協力関係を築くようにしている。また、利用者処遇関係（書類など）で担当者からアドバイスを頂くこともある。支所からの依頼により、認知症サポーター養成講座を開催している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」の理解の徹底を図っている。危険行為などされる方については、対応の仕方を都度話し合い、適切な支援について検討し、散歩に出たい人には出たい時に安全面に配慮しながら付き添い、鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。</p>	<p>日中は玄関を開放している。安全確認のため、玄関にはセンサーチャイムを活用している。骨折の経緯から、医師からのアドバイスを受け、家族の了解を得て、やむを得ず車いすへの固定ベルト（身体拘束）をする場合がある。社内研修が実施され、適宜確認・見直しをしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止マニュアルを作成し、虐待とは何か等、法を学ぶ時間を設けている。町から勧められる研修への参加と、参加後の研修報告を行ない意見交換を行なう。管理者は職員の様子に注意を払い、必要なメンタルケア支援を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修等への参加・書物での勉強等で学ぶ機会を多く持つようにして、職員個々が概要を理解できるようにしている。個々で必要となった場合には関係者との話し合いを持つようになっている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>苑でのケアの取り組みや考え方を説明して、ご本人やご家族の意見要望を聞いて、納得して頂けるまで時間をかけて話を聞いている。解約事項についても細かく説明を行い、不安をなくすように心がけている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の方々との日々の会話の中から要望や心情を察し、サービスを提供し、ご家族に日頃の状況を報告して意見をもらったり、ご家族からの要望も聞いて、職員間で話し合い改善できるようにしている。</p>	<p>家族から感謝の手紙を頂くことが多い。要望などは職員連絡帳を活用されていた。家族から職員の電話対応での注意を受け、改善したこともある。家族との面会時には必ずホームでの状況を伝え、協力関係を築く努力をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所のみでの判断で済まされる事項については、会議やミーティング・日々のケアの中で意見や提案を聞き、話し合いをした上で決定して実践するようにしている。経費が必要な事項や大幅な改善が必要な場合は、代表者に報告・相談して決裁をもらっている。	利用者の日々のケアについての話し合いが多く、毎月の各ユニット毎のミーティングなどで話し合いが行われている。管理者から個々の職員に対して、日々のお礼として、感謝状を手渡している。職員がやりたいと思う提案などがあれば、反映されるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行い、職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。また休憩時間の確保、時間外手当の支給をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の段階に応じた外部研修を受講できるように計画を立てている。新人職員には管理者、リーダーが介護の方法、精神的ケア等指導して、現場で常に助言・援助を行っている。成功体験や達成感をもてるよう評価していくこととしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	郡のケアマネ協議会やその他の会議等で、他の施設の管理者・ケアマネジャー等と情報交換を行い、新しい着眼点を見出しサービスの質の向上を目指している。また平成25年より郡内のグループホームの管理者が2ヶ月に1回、各施設で集まり意見交流をしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談時には、リラックスできる雰囲気づくりに努め、ご本人の本音が引き出せるよう、礼儀正しく、誠意をもって面談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の話したい事や困っている事をよく聴いて受容し、これからの生活について相談している。苑で出来る事を具体的に掲示して両者で確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早期対応が必要な場合には担当ケアマネジャーとの連携を取り、利用可能なサービスへつなげられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自分の存在価値を認められるよう、出来る事を引き出し、日々の生活において出番をつくっている。又人生の先輩として色々な場面で教えや助言を得ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃よりこまめに生活の様子、体調について伝えることにより、本人とご家族との会話のきっかけ作りに努めている。部屋でゆっくり過ごしてもらえぬ雰囲気を作り、部屋の片づけ、衣類の点検などをお願いしている。受診の付き添いをお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	各々利用者の方からの馴染みの美容院・理容院に行ける様に対応している。知人・友人の来訪を快く受け入れ、ゆっくりと過ごしてもらえぬようにしている。	利用開始時に馴染みの関係継続の必要性について家族へ伝えている。ホームに知人・友人が来られた場合は、お部屋に案内して、楽しい時間を過ごせるようにしている。高齢者サロンや地域の行事に参加することで、馴染みの人との関係が継続されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員がそれぞれの個性を把握して、個性を生かす働きかけを行い、輪が保てるように調整を行っている。みんなで楽しく話したり、利用者同士の会話が広がる様に、職員も一緒に入って雑談や話を聞いたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設に移られた方に対して、ご家族にその後の様子などを聞くようにしている。施設との連携も取り、今までの生活の流れに沿った介護を受けられるように、引き継ぎを行っている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやりや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で要望に対応したり、個々の生活パターンを把握して、時間や体調によってトイレやベッド介助等を行っている。その日の気分や体調によっても、臨機応変に対応出来るようにしている。（例：気分転換のドライブや散歩）	日頃の会話のなかで、本人の思いや希望などを聞き取り、職員間で情報共有しながら対応している。“外に出たい”という思いの利用者が多く、母体施設の大型車両を借用し、ドライブに出掛けることが多い。利用者がお部屋で食事がしたい、等「～したい」という思いがあれば、本人の意向に沿うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族やケアマネージャーからの情報収集を行い、職員への周知徹底により、現在の状況だけにとらわれず、築いてきた事や頑張りを評価し、尊厳をもって支援が行えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	体の調子や表情を観察して、その日の過ごし方や食事形態を検討し、実行するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人のもつ能力をしっかりと見て、常にご家族や職員で話し合い、介護計画に反映している。まず、参加することに意義を持たせ、本人の持っている力が発揮できる喜びを共有して、意欲へとつながる様に支援している。</p>	<p>日々の生活で、本人の能力が活かされ、喜びを通して活動ができる計画作成をしている。本人の望むことが実現可能となるように、カンファレンスで、介護計画の実施状況やモニタリングを作成し、現状に即して見直しなどを実施している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の実践・様子、食事、排泄、水分量、バイタル、来訪状況などを個別記録に記入して、職員それぞれが常に目を通し、介護計画に沿っているかを検討している。又見直しが必要であれば、介護計画の修正を行なっている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>受診について家族や都合のつかない家族に対して、受診送迎・付き添いを行ない、緊急時の受診も対応出来るようにしている。自宅への外出や外泊も自由にしてもらっている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>民生委員の慰問が年に数回ある為、担当地区だった方の生活ぶりを見て頂いている。出掛けられない方に対しての散髪を、昔からの馴染みの理美容院にお願いして、出向いてもらっている。地域でのサロンへ参加して、地域の方との交流を行なっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>それぞれのかかりつけ医に継続して受診出来る様に支援している。家族対応であっても、日々の体調が良く分かる様に記録を持参してもらい、医師に情報が伝わる様にしている。受診結果は家族から細かく聞き、検査結果や注意事項は、病院から苑に連絡をもらえるようにしている。</p>	<p>今までの病状のこともあり、以前のかかりつけ医としている。家族対応で受診をお願いする場合は、バイタル表（日々のホームでの状況、血圧、検温など）の書面を手渡していた。個々の健康状況については、個別ファイルの「受診結果記録表」に丁寧に記録されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日のバイタルチェック・体調観察を記録して、変化ある時には、報告して助言・対応を受けている。体調悪化の早期発見につながる変化の気づきなどのアドバイスを常時受けて実践している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診するかかりつけ医と、緊急時に受診する病院を家族と話し合い、決めて対応している。入院時にはアセスメントシートで病院に情報提供を行っている。入院時には、家族から体調の様子を聞いて、苑での対応が可能な状態であれば、なるべく早い退院ができるように、病院スタッフからも情報ももらっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化した場合の説明をおこなっている。利用開始時には併設の特別養護老人ホームへの申し込みを提案、重度化や医療面での対応が必要となった場合に、本人や家族が不安とならないように支援している。体調変化毎に再度説明を行い、家族の意向を都度聞くようしている。	ホームとして看取り対応はする方針である。非常勤の看護師がいるが、医療的な行為が継続的にできないため、重度化やターミナルケアに向かう事例が生じた場合、その対応方針について、かかりつけ医や家族との話し合いをその都度重ね、ホームとして最大限可能な範囲で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	状態観察の視点、応急処置などについて勉強会や日頃のミーティングで話し合い、統一できるようにしている。急変時・緊急時には、夜間であっても看護師や管理者に連絡を取れるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練を行うことにしている。消防署の協力を得て避難訓練・避難経路・消火器の使い方などの訓練をおこなっている。近隣の方々への救援方法なども訓練に取り入れている。地域の消防団との訓練を実施している。	災害の発生に備え、災害用品等の備蓄などを準備している。なお、地域の商店や消防団の参加、協力をお願いし、訓練している。法人内グループの応援体制が整っているが、災害時には事業所は地域の防災の拠点にもなる役目があるため、今後は同グループでの話し合いを進めていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々のプライバシーに関する事柄については、皆さんのいる場所では聞いたり、話したりしないように徹底している。日頃の会話・声掛けに対しても、尊厳ある対応を心掛けている。着替えやトイレの介助を行う際には、部屋の戸を閉めて、人目に触れない事を徹底している。	居室入口は鍵が掛けられるようにしている。着替えやトイレの介助を行う際には、部屋の戸を閉めて、人目に触れないように徹底している。また、利用者個々の苗字で呼ぶように統一している。法人全体での方針があり、利用者一人ひとりを尊重し、個々に合った支援および声掛けには、十分気を付けた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	全体に目を配り、声掛けを多くして日頃と違う様子や動作から、その人の思いや要望を読み取れるように指導している。本人の伝えきれない気持ちを代弁してあげる事で安心感を持ってもらい、自信へとつながるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	気分によって、1日に何度も散歩に出掛ける方や買物に出掛けたい方への付き添いを行っている。「家に帰らんといけん」と混乱気味に言われる方に対しては、自宅までドライブしたり、一緒に散歩し、気分転換を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	散髪に行きたいとの声がある時には対応するようにしている。各担当者が衣類整理を一緒に行い、いつも清潔な衣類が身につけられるようにしている。入浴時には、一緒に衣類を選び、気分転換につながるような変化を楽しめるように支援している。又起床後、髭そりや整髪を行なうよう誘導し、身なりを整えるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事準備の臭いなどから、今日の献立の話しをしながら、食事への意欲が持てるように働きかけている。摂取状況や食べ方などを観察してより良い処遇へとつながる材料を見出している。話をしながら楽しく食事ができるようにしている。テーブル拭き・配膳・お茶入れ・食器洗いなど、それぞれに合った手伝いが出来るようにしている。	3食手作りで提供している。食事は、車いす利用の方も椅子へ移乗して正しい座位で食している。本人の能力に応じて、盛り付け、テーブル拭き、食器洗いができるようにしている。職員も朝・夕食（2食）は同じ時間に同じ食事を食することにより、食事が楽しめる工夫や雰囲気づくりをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	それぞれに合った食事形態を工夫したり、病気によって禁止食材の代替えを行ったり、自助具使用によって出来るだけ自分で食べてもらえるように支援している。食事摂取量・水分量のトータルを毎日記入して、不足とならないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、出来ない方に対しては職員が介助を行っている。夕食後には職員が必ず付添い丁寧に磨いた後、義歯洗浄剤に浸けている。口腔内の状態も歯磨き時に点検するようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレへの声掛けを定時・食事前に行っている。落ち着いて食事できるように、食前にはできるだけトイレに行ってもらっている。夜間は巡回時に個々の排泄パターンに合わせた声掛けで起きてもらいトイレ介助を行っている。紙オムツ使用の方であっても、排泄の要求がある時にはトイレ介助している。	トイレは、各居室やフロアーに有り、住環境の整備にも力を入れている。トイレに座ることを基本とし、利用者の排泄状況の記録を確認しながら、利用者のペースで声掛け誘導を行っている。なるべく服薬や紙おむつに頼らないように、個々の生活習慣を把握し、自立支援に向け取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防と水分補給を兼ねて、寝る前と朝一番に牛乳を提供している。毎日のラジオ体操でしっかり体を動かすようにし、外に出て散歩を楽しんだり、寒い時には廊下を皆で一斉に歩いて運動をしている。毎日の排便確認を行って、2～3日排便ない時には、下剤服用で排便を促すようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	シャワー浴であれば希望時に入ってもらえる事は可能である。週3回入浴できるように計画している。その日に入りたい方や前日に受診で入れなかった方などは、その日の方達が終わった後に入ってもらっている。介助が必要な方や目を離せない方が多いため、2人で入浴介助をしている。	週3回、午後(14:00～15:00頃)からの入浴としている。衣類など汚れた場合は、柔軟にシャワー浴を実施している。開所当初(平成22年)の大浴槽(2～3人可能)では、浴槽内で身体が不安定な事を受け、1人浴槽へ変更した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	昼食後や入浴後などに、横にな りたい方には休んでいただき、そ の日の体調や眠い時にベッドで 横になれるようにしている。皆 さんのいるところの方が安心で きる人もいるため、自由にソ ファでも休んでいただいている。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている。	薬の説明書は個人ファイルに閉 じて、職員がいつでも見られる ようにしている。医師の指示の もと、調整出来る薬は状態を見 ながら調整して、服薬してもら っている。服薬の確認を行なっ ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	個々の得意分野での手伝いや、 手仕事を任せて行ってもらっ ている。責任感から体力的・精 神的な負担とならないように 支援している。嗜好品として、 お菓子など間食の持ち込みが ある方には、適時提供してい る。季節毎の行事や外出行事を 計画して、気分転換や楽しみ が増えるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。	苑外への散歩は、出たい時に 出られるようにしており、必ず 付添いをしている。又希望があ る場合、ドライブにも出かけて いる。	家族の協力を得て、個人で外 出される方もおられる。行事 での外出先には、必ず職員が 下見（トイレの場所、車いす 対応可能など）をしている。 年間行事計画書により、季節 毎（花見、紅葉狩りなど）の 外出をしている。同法人内の 事業所で、催し物や地域行事 があれば参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	トラブルのないよう、多額の 現金は持ってもらうまいよう にお願いをしているが、自分 で管理出来る方には1万円 以下の現金を持ってもらい、 買物時には自分で払ってもら っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族の了解を得られた利用者については、思う時に電話で話をしてもらっている。家族や子供さんからの手紙や荷物など届いた時には、本人がお礼の電話が出来るように対応している。家族などに暑中見舞いや年賀状を一人1枚づつ出せるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常にいつもの場所にいつもの物があるようにして、戸惑うことのないように配慮し、季節毎の飾り物やレクリエーションで季節の歌を唄ったりして、季節が認識できる工夫をしている。適切な室温になるよう空調調節を行い、衣類の調節の声掛けや支援をしながら、快適に過ごせる様にしている。	掃除は毎日行い、ホーム内は清潔に保たれている。玄関、廊下、リビングなど、事業所は暖かい雰囲気落ち着いて生活が送れるよう配慮されている。季節感を取り入れるため、外出先で摘んだ花を活けることもある。プランターによる野菜づくりにも力を入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日中はリビングのソファでくつろぎながらテレビを見たり、レクリエーションをしたりがほとんどで、ソファで横になりたい方には、横になって休めるように配慮している。午後はベッドで横になりたい方や、気分によっては眠りたい方には自室で休めるように対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れた物を持ちこんでもらい、安らぎの居住空間となるよう、本人の使い慣れた物を持参して頂き、部屋は片づけも職員が勝手にしてしまうのではなく、一緒になって片付ける事で安心感を持ってもらえるように支援をしている。	利用開始前に「入所時に必要な持参物」の書類を手渡している。各居室内には、ボランティアによる似顔絵（色紙）が飾られている。居室内はベッド・寝具・空調などは事業所の備品として準備されており、その他テレビ・家具・馴染みの物品など、本人が必要とするものは、本人・家族と相談しながら工夫して配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自室や共有スペースでの行動は自由に行ってもらっている。洗濯物干し・たたみ・食器洗い・掃除・配膳など、個々に合った出来る事をそれぞれにしている。各ユニットへの出入りも自由にしているため、思うように行動出来、話をしたい人の所へも行ってもらっている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ひまわり苑

作成日 平成28年 9月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	各ユニットで理念に基づいた介護計画(目標)がたてられているが、定期的な評価ができていない。	目標を共有、実践し評価する。	ケアの見直しや日々の実践について記録をし、目標の達成度を各ユニットで評価する。	1年間
2	4	運営推進会議での取組について、御家族への周知ができていない。	運営推進会議の内容を家族に知ってもらう。	運営推進会議録を家族に送付する。参加メンバーを増やす。	1年間
3	35	防災訓練について、事業所単独で行っているが隣接する他事業所と連携できないか。	災害時、グループで協働できるような仕組みを構築する。	各事業所での防災訓練への参加。	1年間
4	40	食事を楽しめる様な環境づくりが不十分。	美味しい食事を楽しめるよう環境を整える。	食事時の席の配慮、職員と一緒に食事を摂る	1年間
5	19	御家族の来苑回数向上への対応不足。又苑への要望も本音が伺えないのではないか。	家族との信頼関係を構築し利用者様へのサービス向上につなげる。	苑での様子をお知らせする便りの発送。状況や希望に応じた自宅や親戚への外出支援する。	1年間
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。